

北広島 古楽愛好の会

2nd Concert

ヨハン・セバスティアン・バッハ

モテト “イエスよ わが喜び” 全曲演奏

Johann Sebastian Bach Motette "Jesu, meine Freude" BWV.227

北広島古楽愛好の会 リコーダー・古楽の仲間モテト合奏団 指揮 原田文夫

賛助出演 千成千徳 Viola da Gamba 札幌リコーダー協会

=プログラムから=

・混声合唱(ア・カペッラ)

H.イザーク「インスブルック 別れの時 他」

・低音リコーダー(8f)によるアンサンブル

J.ダウランド“涙のパヴァーヌ”五重奏曲集から「悲しみの涙 他」

・ルネッサンス期の世俗音楽リコーダー・アンサンブル

W.バード「セレンガール・ラウンド 他」

・リコーダーと通奏低音によるディヴィジョン

ロバート・カー「イタリアングランドによるディヴィジョン」

★

・リコーダーとガンバによるブロークンコンソート(賛助出演)

A.ホルボーン“舞曲集より”「パヴァーヌ ガリアルド 他」

・ヴィオラ・ダ・ガンバ・ソロ(賛助出演)

サント・コロンブ「プレリュード アルマンド 他」

・日時 2016年4月29日(金) 14時開演(開場30分前)

・会場 北広島市芸術文化ホール(花ホール)

・チケット 大人 1,000円 小中高生 500円

・チケット扱い 北広島：花ホール 札幌：セントラルプレイガイド

・問い合わせ 011-373-8248 田谷 011-591-8975 原田

・主催：北広島古楽愛好の会 ・後援：北広島市/北広島市教育委員会 北広島音楽協会 北海道新聞社

北広島古楽愛好の会 第2回コンサートに寄せて

今日、我が国の学校で使用されているリコーダーが、声に合わせて盛んに使われるようになったのは1450年頃からです。その後、独奏楽器の地位を得るようになりますが、バッハの亡くなった1750年頃になると舞台から姿を消して行きます。音楽史ではこの時代をまとめてルネッサンス・バロック期と呼んでいます。そんなリコーダーを中心に、私たちはヴィオールやチェンバロを加え、当時の音楽いわゆる古楽の再現を試みてきました。

20世紀後半になって“古楽とは何か”また“古楽の復活”などのタイトルで学者や演奏家が本を書くようになりました。いずれの著作もこの時代の音楽を、今日行われているあらゆる音楽活動の源泉と位置づけております。

私どもの“古楽”もまた同じ意味での使用です。

当時の音楽家たちは、主に愛好家のために、またキリスト教にかかわる人の心の癒しのために作曲しました。演奏する者の数は限られており、会場もまたおおむね小さいのが普通でした。このような条件を踏まえながら、当時の音楽を再現してみるとどうなるのだろう、またどんなことを我々はそこから手に入れることができるのだろう、といった問題の解明が会員の課題となりました。

平成27年12月12日、前年に続く“ピティナ・ピアノステップ”への参加に対するアドバイザーの批評に、私たちは更なる励ましを得ました。

今年もまたここ北広島市芸術文化ホールでコンサートを開催いたします。ヴィオラ・ダ・ガンバには、昨年と同じくこの楽器の日本における草分け千成千徳氏を迎え、あわせて北海道で唯一 ヴィオール合奏を楽しんでいる札幌リコーダー協会有志の賛同を得ました。

共演は、おなじみ“リコーダー・古楽の仲間”の皆さんです。

この1年の努力を聞いていただければ幸いです。

会員一同

油谷 一徳	遠藤 幹哉	大内 淑枝	大島 桂子	小原 君子
梶野三重子	鈴木 隆佳	千成 俊夫	千成 洋子	高倉千恵子
田谷由隆子	原田 文夫	三浦由香利	村山 岳史	山岸 節子